

米国景気の現状

ポイント① 経済成長は緩やかに減速

政府機関の閉鎖の影響で発表が遅れていた2018年10-12月期の米国のGDP(国内総生産)統計が、2月28日に発表されました。実質GDPは前期比を1年当たりの伸び率に換算したベースで+2.6%と前期の同+3.4%を下回り、2四半期連続して減速しました。ただし、2%程度と見られる潜在GDP成長率(経済の供給側の成長率)を上回っており、緩やかな減速に留まったと言えます。

ポイント② 1-3月期はもう一段減速の様相

年明け以降の米景気は、10-12月期よりもう一段減速したものと見られます。3月1日発表の2月の米ISM(サブライマネジメント協会)製造業景況感指数によれば、景況感指数は54.2と1月の56.6から低下し、2016年12月以来の低水準となりました。また、原材料やエネルギーなどの川上のインフレ圧力を示す支払価格指数は49.4と、2カ月連続で上昇と下落の分岐点となる50を下回りました。

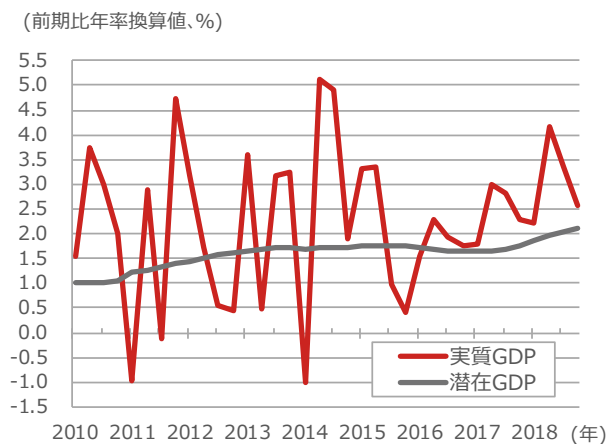
米景気減速の背景には、ひとつには中国、欧州、日本などの景気減速、米中貿易摩擦といった国際経済環境の悪化が考えられます。それに加え、米国内では昨年末までのFRB(米連邦準備制度理事会)による利上げや保有資産削減の累積的影響、2017年末に成立した減税策の効果一巡なども景気減速要因となっているようです。

ポイント③ 今後の企業景況感に注目

ただ、米中貿易・経済交渉は進展が見え、3月からの米国の中国製品への追加関税引き上げは見送られました。また、FRBは当面利上げを行わない方向に転換しました。保有資産削減も年内終了の方向のようです。こうした要因を背景に米国株価は今年初から反発しています。株式市場の環境改善により、今後、企業景況感が回復に向かうかどうか注目されます。

図1：米国の実質GDP成長率と潜在GDP成長率

期間：2010年1-3月期～2018年10-12月期、四半期



(出所) 米国商務省経済分析局、議会予算局データより野村アセットマネジメント作成

図2：ISM製造業指数

期間：2008年1月～2019年2月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

3月8日 米国雇用統計(2月)
3月12日 米国消費者物価指数(2月)
3月15日 米国鉱工業生産指数(2月)